

2009.6.30

武庫川流域委員会 委員長

松本 誠 様

委員 法西 浩

いろいろとお世話になります。  
次回運営委員会に向けて下記意見書を提出したいと思います。  
よろしく申し上げます。

意 見 書

- 次期知事選に向け、知事候補者への公開質問状(別紙)
- その質問状に対する回答書の公開(別紙)
- 新聞記事の提供(別紙)

公開質問状として提出されていますので、本委員会にも公開しておきたいと考えております。

## 県知事選にあたって

6月18日兵庫県知事選挙が告示され、7月5日に投票が行われます。私たちは今後4年間の県政を誰に委ねるのか選択しなければなりません。そこでは政治・経済・教育・福祉・環境など、あらゆる面での政策、姿勢が問われることになるでしょう。

私たちは武庫川流域に住むものとして、現在最も関心のあるのは環境です。そこで特に武庫川ダム問題に限って、公開の質問状を各候補者に提出することになりました。

日程が迫っておりますが、6月25日までにご回答下さい。

2009年6月15日

連絡先 武庫川円卓会議

奥川和三郎（21世紀の武庫川を考える会）

663-8143 西宮市枝川町2-135-404

TEL 0798-48-8901

## 公開質問状

- 1、武庫川渓谷は兩岸に岩壁がせまり、瀬や淵、小滝が連なって見事な渓谷美を造り出し、溪流沿いの旧福知山線廃線路敷は都市部にあって格好のハイキングコースとして、多くの市民に親しまれています。また、渓谷にはレッドデータブックにも記載されている貴重な生物が数多く生息しています。ここに巨大なコンクリート建造物のダムを建設することになれば、渓谷の景観はもとよりハイキングコースはズタズタに引き裂かれ、貴重な生物は壊滅的な打撃を受けることになります。一旦破壊された自然は容易に元には戻りません。それでもダムは必要でしょうか。

- 2、県は「阪神間の住民の生命、財産を守るため」として武庫川ダムの建設を計画していますが、ダムによる洪水調節効果には限界があります。計画規模以上の洪水に対しては効果がありません。異常気象による大雨が予想される今日、優先すべきは堤防の強化です。堤防が決壊すれば人命が危険にさらされ、被害が拡大することは「ダムがあっても堤防が決壊している」円山川や三原川などの各地の例で明らかです。ましてやダム建設を口実に堤防強化が後回しになることは許されません。武庫川の堤防強化こそ最優先で緊急に取り組むべき治水対策ではないでしょうか。

- 3、治水政策はダムに頼らない総合治水が世界の動きになっています。アメリカでは以前から「ダムの時代は終わった」としてダムを撤去する動きさえあります。日本でも「脱ダム宣言」等の動きがあり、地方分権の動きや財政状況も相まって、ダム建設に反対する自治体も出てきています。武庫川においても関係市の中からダムに頼らない総合治水を求める意見が出てくることも考えられますが、その場合は関係市の意見を尊重されるのでしょうか。

- 4、県は「参画と協働の県政を進めるため」として、武庫川流域委員会を立ち上げました。武庫川流域委員会は2006年8月30日、「武庫川の総合治水へむけて」の提言を行い、「武庫川の治水は流域全体での総合治水によるべきである」として、田畑やため池、学

校や公園、調整池の活用などの流域対策を重視しています。洪水調整施設でも既存ダム  
の活用を優先するよう指摘して、「当面の河川整備計画では武庫川に新規ダムは必要な  
し」と結論づけました。この武庫川流域委員会の提言を尊重されますか。

5、県は「武庫川ダムは穴あきダムになっており、常時水が流れているので環境への影響  
は少ない」と説明していましたが、穴あきダムであっても、洪水の時はもちろん試験溢  
水時にも、冠水によって植物は枯死し、渓谷の生物は死滅してしまいます。このことは  
すでに建設された益田川ダムをはじめ各地の穴あきダムの例を見れば明らかです。

また、土砂の堆積や流木等により河床に設けられた放流口がふさがる危険性がありま  
す。それに対しては流木止めや砂止めのための新たな工事が必要になると思われま  
すが、それまでして穴あきダムを建設する必要があるのでしょうか。

6、県は武庫川下流の計画水位までの流下能力を毎秒 2,500 トンしか流れないように過小  
評価してダムが必要とこじつけているように思えます。実際には 2004 年の 23 号台風時  
には計画水位より 1メートルも低い水位で観測史上最大といわれる毎秒 2,900 トンが流れ、  
これから逆算すると流下能力は毎秒 3,200~3,300 トンになることが県の資料からも明ら  
かになりました。その差毎秒 700 トンは新規ダムの 1 個分に相当します。とすれば、大  
きな犠牲を払ってダムを造る必要は無いのではありませんか。

7、流下能力の算定にあたっては粗度係数（流量を算定するにあたり、川床の流れにくさ  
（抵抗）を示す係数）のとりかたによって違いが出てきます。県は材料分析による「推  
定粗度係数」を、本来の求め方でない間違っただ方法で使用してきましたが、より客観的  
には洪水時の流量や水位から逆算する「逆算粗度係数」を使用すべきであり、そうす  
ると流下能力は毎秒 3,100~3,200 トンになります。

このように武庫川の流下能力を正しく算定し直すと、ダムは必要無くなるのではあり  
ませんか。

8、武庫川水系河川整備基本方針は100年に一度の大雨による洪水に対するものとして策定されていますが、実際にそれほどの雨が降れば上流の河川は溢れ、三田地域は相当広い範囲で洪水状態になり、すぐには武庫川へ流れ込むとは考えられません。結果的に自然貯留の状態になります。

上流域での自然貯留を考慮するなら、基準点での基本高水流量の毎秒4,650トン（既往最大値の99%）はあまりにも高すぎます。これを見直す考えはありませんか

9、武庫川の流下能力を高めるためには、全流域を使つての流域対策により流下水量の抑制をはかると共に、潮止め堰や床止め工の撤去が重要です。それはまた水生生物の移動を可能にし、アユが遡上することもできるようになります。河口には干潟が広がり野鳥の飛来も期待できるでしょう。このような自然豊かな武庫川をよみがえらせることは私たちの願いです。

武庫川の潮止め堰や床止め工の撤去を進める考えはありませんか。

2009年6月15日

武庫川円卓会議

武庫川を愛する会

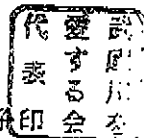
代表 谷田百合子

兵庫県勤労者山岳連盟

理事長 門脇道成

21世紀の武庫川を考える

代表 奥川和三郎



## 県知事選公開質問状に対する回答

武庫川円卓会議として6月25日に提出した、井戸、田中両候補者に対する公開質問状に対しては6月19日付けで井戸敏三氏から、田中耕太郎氏からは6月24日付けで回答（返事）がありましたのでお知らせします。井戸候補からの返事は「回答しません」というもので、全く不誠実なものですが、そのまま掲載します。なお、参考のため井戸氏の「私の政策」の中で関連すると思われる箇所を抄出します。それに対し田中候補の回答は各項目にわたり誠実に回答され、その内容もダムに頼らない総合治水を追求する私たちと同じ姿勢です。

(井戸候補からの返事)

「私の政策」抜粋(9頁〇3番目)

(田中候補からの回答)

前 略

このたび貴団体から、井戸敏三あてにご質問をいただきましたが、「新生兵庫をつくる会」といたしましては、回答いたしかねますのであしからずご了承くださいますようお願い申し上げます。

なお、井戸敏三の施策を明らかにした資料をあわせ同封させていただきます。この中にご質問に関連する事項もあるかと思われまますので、ご参考にしていただければ幸いです。

草 々

平成21年6月19日

武庫川円卓会議

21世紀の武庫川を考える会

奥 川 和 三 郎 様

井 戸 敏 三

新生兵庫をつくる会

09年6月24日

田中 耕太郎

担当（憲法県政の会・森）

電話078-362-1805

09兵庫県知事選挙「武庫川ダム問題にかんする公開質問状」の回答をお送りします。  
よろしく申し上げます。

1. 自然環境や生態系は、微妙なバランスで成り立っており、一端壊れると、元通り  
にとりもどすのは、不可能に近いものです。

武庫川渓谷は、都市部に近いなかで、残された貴重な自然・景観であり、ダムを優  
先して壊すべきではないと考えます。

「ダム予定地からの移植するための環境調査」なども行われていますが、いまある  
武庫川渓谷の環境のなかで、維持される自然環境を大切にしたいと思います。

2. 2004年の台風・豪雨災害では、円山川の堤防の決壊や無堤防地区の浸水が問  
題になりました。また、アメリカのハリケーン被害でも、堤防の決壊が問題となりま  
した。堤防が決壊すれば、洪水の水圧は、床上浸水のような軽いものではなく、洪水  
から住民の命を守るために、堤防の強化のための調査や工事を、なによりも優先すべ  
きと考えます。現在の県の部分的な堤防強化策は、堤体への浸水対策だけですが、川  
の水が堤防を越えたときの対策など、様々な堤防の強度を高める対策・工法などを工  
夫したい。

阪神淡路大震災の教訓からも、被害の軽減・分散による「減災」ということを、全  
国、世界に発信できるような兵庫県をめざして、武庫川の総合治水についても、がん  
ばりたい。

3. 「ダムに頼らない総合的な治水対策」が世界の流れになっており、日本でも広く  
理解されはじめます。関係市からのそうした意見は、もちろん尊重します。

「ダムがなければ、下流は危険にさらされる」という見解も一部にあります。1  
00年に一度という過大な洪水予測に問題があり、ダムに頼らない上流・中流域の対  
策、下流域の対策を、関係する市や住民といっしょになって検討し、総合治水のため  
の道を切り開いていきたい。

4. 「当面、武庫川に新規ダムは必要ない」との流域委員会の提言の内容を尊重しま  
す。

今後さらに、流域委員会と共に、下流の流下能力の問題や、流域対策の充実などの  
総合治水のための課題について、調査と議論を積み重ねていきたいと思ひます。



5. 「穴あきダムが環境にやさしい」ということは、言えないのは明らかである。益田川ダムの試験湛水では、水面より下の草木が枯れており、現在のようにハイキングができる保障も全くない。

穴あきダムを建設する必要はないと考えます。

6. 2004年台風の県自身の洪水痕跡と阪神電鉄の計測などから、武庫川下流の流下能力が、県が想定している毎秒2900トンよりも大きく、その差は700トンと  
いうかなりの量であることは事実であると認識している。

県としても徹底した調査を行い、住民に資料を公開し、ダムをつくる必要のないことを、住民に理解していただくことを重視したい。

7. 流下能力算定には、疑問が提起されており、粗度係数、代表粒径、河道区分などの再調査を行いたい。そのうえで、ダムが必要ないことを明確にしたい。

公共事業のあり方として、疑問点を放置したままで、県が一方向的に正しいとして、事業を進めるやり方は、適切ではない。

8. 武庫川の上流や、天王寺川などでの自然貯留をいっさい無視して、雨がつづけば、一気に武庫川に流れてくるのが前提の県の現行の治水計画は、現実を無視しており、過大な洪水予測をみちびき、ダムありきの計画だと言わざるをえない。

自然貯留を計算に入れた基準点の基本高水に変更するための見直しを行いたい。

9. 武庫川の床止めと潮止め堰の撤去は、武庫川ダムの半分もの流下能力を向上させる効果があると言われており、河口と下流の自然再生、天然鮎が遡上する武庫川にとっても、必要であり、ぜひ実現したい。

神戸新聞 2009.6.24

(第3種郵便物認可)

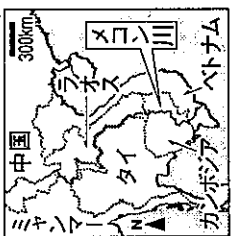
# メコン川の淡水魚守れ

## 生態調査の影響解明

国立環境研究所  
日本の成果活用

提供 法西 浩

メコンオオナズナなど多くの淡水魚がすみ、漁場としても重要なメコンの大河、メコン川の淡水魚の生態を総合的に調べ、ダム建設が生物多様性に与える影響の解明を目指す国際共同研究プロジェクトを、日本の国立環境研究所が中心になって始めることになった。関係者が24日、明らかにした。

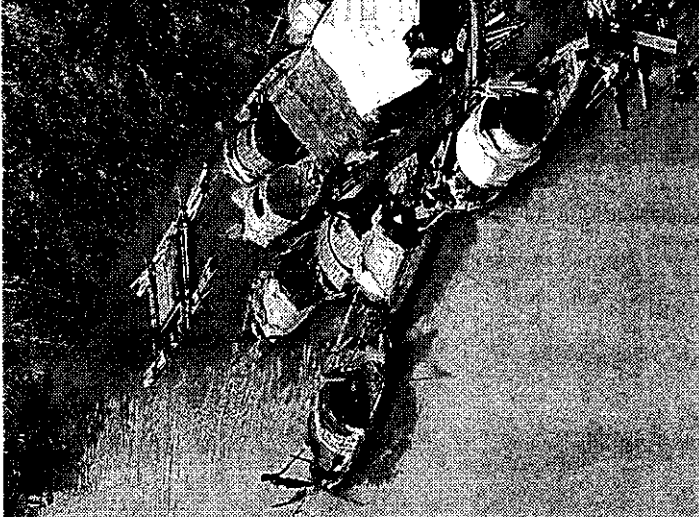


メコン川は中国に源を発し、ミャンマー、タイ、ラオス、カンボジアを経てベトナムのデルタ地帯

で海に注ぐ全長4千キロ超の大河。支流を含め大きなものだけでも30を超え、ダム建設計画があり、川の生物多様性や漁業に依存する住民の暮らしに悪影響を与えることへの懸念が高まっている。環境研のグループは、ダム建設が淡水魚の分布や生物多様性に与える影

響の研究を北海道各地に進めており、この成果をメコン川に応用することを目指す。同研究所の橋島隆生主任研究員は「ダム建設によつて失われる漁獲量や漁業収入の額なども推定し、生物多様性や水産資源の保全に貢献するメコン川開発のシナリオ

カンボジアのメコン川に浮かぶ小さな漁船。多くの人々が漁業に依存している＝4月（共同）



メコン川の生態系メコン川では800種近くの淡水魚が確認され、生息する魚は1万2000種に達すると推定されている。メコンオオナズナなどの固有種や絶滅

危惧(きん)種も多い。世界的に希少な淡水イカカの方ゴンドラのメコン川個体群は近年、急激に数が減り、極めて絶滅の恐れが高い。メコン川は世界最大の内水面漁業

地帯でもあり年間の漁獲量は260万トン。中国に建設されたダムや支流のダムなどが、生態系に悪影響を与えていると指摘されている。

を提案したい」としている。

共同研究では、川沿いの淡水魚の種類や分布、生息環境の特徴などを現地調査し、地図上にさまざまな情報を表示できる地理情報システム(GIS)を使ってデータベース化。カンボジアやタイ、ラオスなどは主な回遊魚約20種を採取し、耳石と呼ばれる頭部の骨に蓄積された化学物質を調べる。これにより魚がすみ淡水の環境を把握、回遊ルートを解明する。

これらのデータを基にダム建設で回遊ルートが断たれたり、水量が減ったりすることが魚の生存に与える影響をコンピュータシミュレーションで推定。川の生態系に与える影響を最小にするようなダムの建設地などを示す。

研究には、世界銀行や日本政府が出資する国際研究機関のワールドワイドシシエセンター(本部・マレーシア)、カンボジアやタイの大学、研究機関などが参加する。

武庫川溪谷の環境調査に高額の予算が県から支出された由、その成果をご回答お願いいたします。中間発表で結構です。